

〈表紙〉

論文種別

報告

題目（和文・英文）

BWF Shuttle Time Tutor 養成講習会の受講と大学体育における初心者指導への示唆

Participation in the BWF Shuttle Time Tutor Training Course and Its Implications for Beginner Badminton Instruction in University Physical Education

全ての著者名及び所属機関（和文・英文）

藤野和樹

千葉商科大学

Kazuki FUJINO

Platform for Arts and Science, Chiba University of Commerce

連絡先（メールアドレス）

k-fujino@cuc.ac.jp

〈本文〉

はじめに

近年、世界バドミントン連盟（Badminton World Federation：BWF）は、学校教育におけるバドミンの普及を目的として、「Shuttle Time（シャトルタイム）」プログラムを世界各国で展開している。本プログラムは、「Giving every child a chance to play for life（すべての子どもたちに、生涯にわたってバドミントンを楽しむ機会を）」を理念に掲げ、子どもたちが楽しく、安全にバドミントンを学ぶことができる教材や指導プログラムを提供している（BWF, 2025a）。筆者は 2026 年 8 月に日本で初めて開催された BWF Shuttle Time Tutor 養成講習会に参加した。

筆者はこれまで大学体育におけるバドミントン授業の実践と研究に取り組んできた。本講習会の受講を通して、実践と研究を通じて培ってきた初心者指導を、Shuttle Time の教育理念や課題構成との比較から改めて捉え直すとともに、新たな教育的視点を得ることができた。そこで本稿では、BWF Shuttle Time Tutor 養成講習会の概要を紹介するとともに、受講を通して得られた知見を整理し、大学体育における初心者指導への示唆について考察する。

1. Shuttle Time Tutor 養成講習会の概要

2026 年 8 月 4 日から 6 日にかけて、筑波大学において、日本で初めてとなる BWF Shuttle Time Tutor 養成講習会が開催された。Shuttle Time は、「すべての子どもたちに生涯にわたりバドミントンを楽しむ機会を提供する（Giving every child a chance to play for life）」ことを理念とする学校教育プログラムである（BWF, 2025a）。Shuttle Time では、学校教員や指導者を対象とした Teacher 養成講習会と、Teacher 養成講習会の講師を養成する Tutor 養成講習会が設けられている（BWF, 2025a）。

本講習会は、公益財団法人日本バドミントン協会による調査・分析依頼を受け、特定非営利活動法人日本バドミントン指導者連盟により実施された。受講者は、大学教員、高等学校教員、都道府県バドミントン協会・連盟関係者などで構成され、多様な立場から Shuttle Time の普及に携わる指導者が参加した。講習会では、BWF から派遣された認定 Trainer による講義・実技を通して、受

1 講者は Teacher 養成講習会の設計・運営方法，教材の活用方法，講義と実技を
2 組み合わせた指導法，フィードバックおよび評価方法などについて学んだ．ま
3 た，講習会を通して実技や模擬指導等に関する評価が行われ，所定の能力基準
4 を満たした受講者には BWF Shuttle Time Tutor 認定が付与された．認定を受け
5 た Tutor は，各地域において Teacher 養成講習会の講師を務め，Shuttle Time
6 の普及を担う役割を果たす．

7 講習会に先立ち，受講者には Teacher Manual, Lesson Plans, 動画教材等が
8 共有され，各自で教材やカリキュラムについて理解を深めるための事前学習が
9 課された．その後，3 日間の対面講習が実施された．前半 2 日間は，Shuttle Time
10 の理念や教材構成，指導法，実技プログラムについて学ぶとともに，受講者同
11 士による実技指導や相互フィードバックを通して，Tutor として必要な知識と
12 技能を習得した．3 日目には Teacher 養成講習会が同時開催され，Tutor 受講者
13 はグループごとに担当プログラムを割り当てられ，Teacher 養成講習会の一部
14 を講師役として担当した．その後，BWF 認定 Trainer および受講者相互による
15 フィードバックを受けながら，Teacher 養成講習会の運営や指導方法について
16 実践的に学んだ．

17 本講習会の特徴は，講義，実技，模擬指導，相互フィードバックを組み合わ
18 せながら学ぶ実践的な構成にあった．また，Teacher Manual, Lesson Plans, 動
19 画教材，モバイルアプリなどが体系的に整備されており，受講後も継続して学
20 習や授業実践に活用できる環境が用意されていた（BWF, 2025a；2025b）．

2. 受講を通して得られた教育的示唆

2.1 Shuttle Time の教育理念と初心者指導

24 Shuttle Time では，「Giving every child a chance to play for life」を理念とし
25 て掲げ，「FUN & SAFE（楽しく，安全に）」を基本的な考え方としてプログラ
26 ムが構成されている．Teacher Manual（BWF, 2025a）では，競技力の向上の
27 みを目的とするのではなく，子どもたちが安全な環境の中で楽しみながらバド
28 ミントンを学び，生涯にわたってスポーツに親しむことを目指す教育理念が示
29 されている．

30 本講習会においても，こうした理念に基づき，否定的な言葉掛けではなく肯

1 定的なフィードバックを用いることや、学習者が成功体験を積み重ねられるよ
2 う課題を設定することの重要性が繰り返し説明された。また、レッスンプラン
3 では、初心者がラリーを継続しながら基本技能を習得できるよう構成されてお
4 り、グリップについても多様な種類を教示するのではなく、V グリップとバック
5 ハンドの親指グリップを基本とし、シンプルで分かりやすい指導内容となっ
6 ている (BWF, 2025b)。

7 筆者はこれまで大学体育における初心者対象のバドミントン授業において、
8 オーバーヘッドストローク、ドライブ、ヘアピンおよびロブを基本ストローク
9 として扱い、ラリーを継続できる技能の習得を重視してきた (藤野ほか、
10 2022)。また、グリップについても V グリップとバックハンドの親指グリップ
11 を基本として指導してきた。本講習会の受講を通して、これまで実践と研究を
12 通して培ってきた初心者指導が、Shuttle Time の教育理念や課題構成と多くの
13 共通点を有していることを確認するとともに、その背景にある教育的意図を改
14 めて捉え直す機会となった。

16 2.2 学習意欲を高める授業設計

17 Teacher Manual や Lesson Plans では、学習者が楽しみながら主体的に活動
18 できるよう、ゲーム性を取り入れた課題や、活動を中心としたレッスン構成が
19 示されている (BWF, 2025a ; 2025b)。また、技能指導の基本的な考え方と
20 して、IDEAS および AVK (Auditory・Visual・Kinesthetic) が紹介された。
21 IDEAS は、導入 (Introduction)、実演 (Demonstration)、説明
22 (Explanation)、活動 (Activity)、まとめ (Summary) の流れで授業を構成す
23 る考え方であり、AVK は、説明、実演、身体活動といった複数の情報提示方
24 法を組み合わせながら学習を支援する考え方として説明された。

25 さらに本講習会の講義では、「学習者が楽しいと感じるためには、成功と失敗
26 の割合がおおよそ 50 対 50 となるよう活動を設定することが重要である」との
27 考え方が紹介された。また、「子どもは動きたくてうずうずしている」という
28 考えのもと、導入や説明はできるだけ簡潔にし、ウォーミングアップから楽し
29 みながら身体を動かす活動を取り入れることが推奨された。受講者同士による
30 模擬指導では、IDEAS や AVK を意識しながら技能を教え合う実践が行われ、

同じ内容であっても、説明だけでなく実演や身体活動を組み合わせることで理解が深まることを体験的に学んだ。

筆者も大学体育の授業では、活動時間をできるだけ確保し、説明を簡潔にすることを心掛けてきた。本講習会を通して、学習者の成功体験を意識した課題設定や、ゲーム性を取り入れながら自然に技能を習得できる授業構成について、これまでの授業実践を改めて見直す機会となった。また、説明、実演、身体活動を意識的に組み合わせることの重要性を再認識するとともに、「成功と失敗の割合」という視点は、課題の難易度を調整する一つの考え方として参考になった。

2.3 学習者に応じた指導方法

Shuttle Time では、すべての学習者が活動に参加し、成功を経験できるよう、インクルーシブな指導が重視されている (BWF, 2025c)。教師用インクルーシブガイドでは、学習者の能力や実態に応じて活動を調整する方法として、STEP モデル (Space, Task, Equipment, People) が示されている。STEP モデルでは、活動する空間、課題内容、用具、人数やグループ編成を調整することにより、同じ教材であっても学習者一人ひとりに適した難易度や活動環境を設定できるとしている (BWF, 2025c)。

講習会では、STEP モデルを活用しながら、同じ教材であっても活動するスペースを広げたり狭めたりすること、用具を変更すること、課題内容を発展・簡略化すること、グループ人数を変更することによって、運動量や成功率が変化することを実践的に学んだ。また、教材はそのまま実施するものではなく、対象者や指導環境に応じて柔軟に改善することの重要性も繰り返し示された。

筆者はこれまで大学体育において、競技経験や技能水準の異なる学生を対象に授業を行ってきた (藤野ほか, 2025) が、STEP モデルは、活動内容を変更するだけでなく、空間や用具、グループ編成を含めて学習環境全体を調整するという視点を提供するものであった。この考え方は、多様な学習者が共に学ぶ大学体育においても、教材や学習環境を設計する上で参考となる視点であると考えられた。

2.4 公開教材の活用可能性

Shuttle Time では、Teacher Manual, Lesson Plans, 動画教材, モバイルアプリなどが体系的に公開されており, これらを活用することで, 指導経験の多少にかかわらず一定の質を保った授業を実施できる環境が整備されている (BWF, 2025a ; 2025b). 動画教材では, 各活動の実施方法や指導上の留意点を視覚的に確認することができ, モバイルアプリを利用することで, 授業中でも容易に教材へアクセスできる.

本講習会では, これらの教材をそのまま活用するだけでなく, 対象者や指導環境に応じて柔軟にアレンジすることの重要性が繰り返し示された. 教材は完成された指導案ではなく, 指導者が工夫を加えながら活用することを前提として設計されている点が印象的であった.

大学体育においても, これらの教材は初心者を対象としたバドミントン授業や体育教員養成課程における教材として活用可能性を有すると考えられる. 特に, 指導経験の浅い教員やティーチング・アシスタントにとっては, 授業計画や実技指導を支援する教材として有用であると考えられる. さらに, 動画教材やルール解説などのコンテンツは, 大学体育受講生にとっても視覚的に理解しやすく, 授業前後の予習・復習やルールの理解を支援する教材として活用できる可能性がある. 公開教材を教員だけでなく学習者も活用することにより, 授業内外を通じた学習支援につながることを期待される.

おわりに

本稿では, BWF Shuttle Time Tutor 養成講習会の概要と, 受講を通して得られた知見について報告した. 本講習会では, FUN & SAFE を基盤とした教育理念, 学習者の成功体験を重視した授業設計, STEP モデルによる教材の工夫, 公開教材の活用など, 多くの教育的示唆を得ることができた. また, 筆者がこれまで大学体育において実践と研究を通して培ってきた初心者指導が, Shuttle Time の教育理念や課題構成と多くの共通点を有していることを確認するとともに, 国際的な初心者向け教育プログラムと比較することにより, 自身が実践と研究を通して培ってきた初心者指導を改めて捉え直す機会となった.

今後は, 本講習会で得られた知見や公開教材を大学体育の授業へ積極的に取

り入れるとともに、その活用可能性や教育的意義について実践を通して検討していきたい。本稿が、大学体育におけるバドミントン授業や体育教員養成に携わる教員にとって、Shuttle Time 教材を活用する契機となれば幸いである。

付記

日本で初めてとなる BWF Shuttle Time Tutor 養成講習会の開催にご尽力いただきました筑波大学の吹田真士先生、甲南大学名誉教授の鵜木千加子先生をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

文献リスト

Badminton World Federation, Shuttle Time 学校バドミントン教師用マニュアル. <https://shuttletime.bwfbadminton.com/> (参照日：2026 年 8 月 18 日), 2025a.

Badminton World Federation, Shuttle Time レッスンプラン. <https://shuttletime.bwfbadminton.com/> (参照日：2026 年 8 月 18 日), 2025b.

Badminton World Federation, Shuttle Time インクルーシブガイドライン (教師用). <https://shuttletime.bwfbadminton.com/> (参照日：2026 年 8 月 18 日), 2025c.

藤野和樹, 木内敦詞, 八田直紀, 升佑二郎, バドミントンのオーバーヘッドストローク技能と運動経験との関係：大学体育授業受講者を対象に. 大学体育スポーツ学研究, 22, 41-48, 2025.

藤野和樹, 木内敦詞, 八田直紀, 升佑二郎, 林直紀, 大学体育バドミントン授業受講者の主観的スキル課題に基づくルーブリックが主観的恩恵に及ぼす効果. 体育学研究, 67, 143-156, 2022.